

ICPSR 国内利用協議会 統計セミナー2013

2013年7月1日
立命館大学

以下の要領で ICPSR 国内利用協議会統計セミナー2013 を開催いたします。多数の方の参加をお待ちしております。

■開催日時：2013年8月5日(月)～7日(水)の3日間

受付開始：10:00、1部：10:30～12:00、2部：13:00～14:30、3部：14:50～16:20

■場所：立命館大学衣笠キャンパス 有心館2階 421・422教室 (次頁地図参照)

■コース概要

8月5日 【入門編1】 データの種類に応じた分析方針 講師：柴田悠 (同志社大学政策学部准教授)

8月6日 【入門編2】 回帰分析入門 講師：佐々木尚之 (大阪商業大学総合経営学部助教)

【応用編1】 パネルデータの分析 講師：水落正明 (南山大学総合政策学部准教授)

8月7日 【応用編2】 計量テキスト分析 講師：樋口耕一 (立命館大学産業社会学部准教授)

【応用編3】 制限従属変数の分析 講師：水落正明 (南山大学総合政策学部准教授)

※8月6日と7日については、2コースが並行して同時刻に行われるため、どちらか1コースを選択してください。

■セミナーの目的：計量分析結果を掲載している学術論文の結果を、的確に理解できるようにする。初等統計既習者については、さらなる学習のための見取り図を提供する。

■受講対象者：社会学、社会心理学、地理学、経済学、政治学、公共政策学、人類学など、社会科学系の大学院生、ポストドク研究員で統計学未習あるいは初等統計程度の理解がある方。

■参加資格：ICPSR 国内利用協議会加盟校の教職員・大学院生(学部学生は対象外です)。参加費は無料です。

■申込受付期間：2013年7月1日(月)～7月12日(金)

※受付期間が短くなっておりますので、ご注意ください。期間内に定員が埋まらなかった場合、二次募集を行うこともあります。

■申込方法：参加定員は各クラス40名を予定しております(定員は諸事情により変更することもあります)。申込は電子メールでのみ受け付けます。件名に「セミナー参加希望」と入力し、本文に(1)氏名、(2)所属、(3)学年または役職、(4)参加希望コース(例：入門編1と入門編2)、を記載した上で、icpsr2013@gmail.com までご送付ください。セミナー受講については、定員の範囲内であれば、全日参加、部分参加ともに可能です。ただし、参加申込は先着順のため、希望者多数の場合、大学ごとに人数調整をさせていただくことがありますのでご了承ください。

■遠方からの受講者について：関西圏外から来られる受講者には交通費補助があります。(名古屋から9,000円、山口から23,000円、関東から28,000円、仙台から36,000円)

■立命館大学衣笠キャンパスへのアクセス

JR・近鉄 京都駅 (烏丸中央口)	京都市バス 京都駅前	市バス 50 (京都駅 B2 のりば)	立命館大学前	徒歩 約 10 分
		約 35 分	衣笠校前	
		市バス 205 (京都駅 B3 のりば)	立命館大学前	
阪急 西院駅	京都市バス 西大路四条	JRバス 高雄・京北線 (京都駅 JR3 番のりば)	立命館大学前	徒歩 約 10 分
		約 35 分	衣笠校前	
京阪 三条駅	京都市バス 三条京阪前	市バス 205 (金閣寺道 北大路バスターミナルゆき)	立命館大学前	徒歩 約 10 分
		約 20 分	衣笠校前	
		市バス 15 (立命館大学前ゆき)	立命館大学前	
		約 30 分	立命館大学前	
		市バス 59 (金閣寺 菟安寺・山越ゆき)	立命館大学前	
		約 30 分	立命館大学前	

■キャンパスマップ



住所：〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

■後援：東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター

8月5日(月)【入門編1】データの種類に応じた分析方針

柴田悠 講師

本セミナーでは、データ分析の初心者を対象にして、データ分析の基礎を解説・実習します。

自分が知りたいことを調べるには、どのようなデータを、どのようにして入手したらいいのか。そのデータを、どのような方法で分析したらいいのか。そういった基本的な分析方針を立てられるようになることが、本セミナーの目標です。初心者向けの解説とともに、統計ソフト SPSS を使った実習も行います。

(1) データの種類と入手方法

データには、「マイクロデータ/マクロデータ」「数量データ/カテゴリカルデータ」「クロスセクションデータ/パネルデータ」といったいろいろな種類があります。そこで、「どういうことを調べるには、どういう種類のデータが必要なのか」を解説し、ICPSR サイトからデータを入手する作業を実習します。

(2) データの特徴をつかむ(記述統計など)

分析方針を立てるには、まずは、入手したデータの特徴を、さまざまな角度から多角的に捉えることが必要です。そこで実習では、データの特徴を視覚的に捉えるために、さまざまな「グラフ」を作成し、「多重対応分析」や「主成分分析」を行います(ただし参加者の状況に応じて「多重対応分析」や「主成分分析」は割愛する可能性があります)。また、その特徴をさらに詳しく捉えるために、「クロス集計表」を作成し、「独立性の検定」や「相関係数の検定」を行います。

(3) より高度な分析に向けて

以上の方法では、じつは、「相関関係」しか分かりません。「因果関係」を調べるには、もっと高度な「回帰分析」などの方法が必要になります。そこで最後に、より高度な分析方法にはどういった種類があり、それらの分析方法によってどのようなことが分かるようになるのかを、幅広く紹介します。

【講師略歴】

氏名：柴田悠(しばた はるか)

専門：社会学

研究テーマ：価値観・幸福度・親密性の効果・要因の分析、社会保障の効果の分析

現職：同志社大学政策学部任期付准教授

最終学歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了・博士(人間・環境学)

【最近の業績】

- 柴田悠、2010、「近代化と友人関係——国際社会調査データを用いた親密性のマルチレベル分析」『社会学評論』(日本社会学会) 61(2): 130-149。
- Shibata, Haruka, forthcoming, “Can Active Labor Market Policies Enhance the Suicide-Preventive Effect of Intimacy? A Dynamic Panel Analysis of 27 OECD Countries Including Japan and Korea, 1980 to 2007,” Hiroshi Tarohmaru ed., *Labor Market, Gender and Social Stratification in East Asia: A Global Perspective*, Brill.
- 柴田悠、近刊、「イベントヒストリー分析」鎮目真人・近藤正基編『比較福祉国家——理論、計量、各国事例』ミネルヴァ書房。

8月6日(火)【入門編2】 回帰分析入門

佐々木尚之 講師

社会科学が対象とする変数は複雑に影響し合っています。回帰分析は、複数の要因を統制したうえで変数間の関連を検証する最も頻繁に利用されている分析方法です。回帰分析の原理は他の多変量解析と多くを共通しており、基礎的な回帰分析の仕組みを熟知することによって、パス解析、構造方程式モデリング、マルチレベル分析等のより発展的な多変量解析方法を理解できるようになります。本講義では実習を重視し、回帰分析を用いた論文を的確に理解できるようになるとともに、自分自身で統計ソフトウェア (SPSS) を用いて分析ができるようになることを目指します。

第一講 回帰分析—基礎編

はじめに、2つの量的変数間の関係を散布図および相関係数で示し、単回帰分析による予測値、残差、決定係数などの解釈の仕方を整理します。

第二講 回帰分析—実践編

実際に重回帰分析を行うにあたって必要な処置について説明します。具体的には、欠損値の指定、コントロール変数の投入、多重共線性の問題などについて解説します。

第三講 回帰分析—発展編

回帰分析をより発展的に利用できるように、前提条件の確認、モデルの選択、交互作用の検証などについて解説します。

【講師略歴】

氏名：佐々木尚之（ささき たかゆき）

専門：生涯発達学

研究テーマ：育児期の家族関係

現職：大阪商業大学総合経営学部助教

最終学歴：Ph.D. in Human Development and Family Sciences, The University of Texas at Austin

【最近の業績】

- ・「日本人の幸福感—階層的 APC Analysis による JGSS 累積データ 2000-2010 の分析—」宍戸邦章・佐々木尚之. 2011 年. 『社会学評論』62(3):336-355.
- ・「不確実な時代の結婚—JGSS ライフコース調査による潜在的稼働力の影響の検証—」佐々木尚之. 2012 年. 『家族社会学研究』24(2) : 152-164.
- ・“Healthy Aging and Intergenerational Intervention in Japan” Sasaki, T. 2012. In A. E. Scharlach, & K. Hoshino (Eds.), *Healthy Aging in Sociocultural Context* (pp. 62-71). New York: Routledge.

8月6日(火)【応用編1】パネルデータの分析

水落正明 講師

パネルデータは、同一の個体（例えば個人、企業、国など）を複数時点にわたって観察したデータである。横断面および時系列の双方の性質を持っており、豊富な情報を含んでいる。そうした利点から、近年、日本でもパネルデータの蓄積が進んでおり、それに伴ってパネルデータを使った分析も多くなってきた。本講義では、パネルデータを使った分析をする上で必要な基礎知識について解説するほか、実習によってその定着を図る。

第1講 量的従属変数の分析

パネルデータの長所や、パネル推定で使われる固定効果モデル、変量効果モデルなどの仕組み、モデル選択などについて解説する。

第2講 質的従属変数の分析

プロビット・モデル、ロジット・モデルなど、質的従属変数のパネル推定について解説する。

第3講 パネルデータ分析の実践

Stata を使って、量的従属変数、質的従属変数のパネル推定の実習を行う。（※教室の PC には Stata が入っていないため、実習を行なってみたい方は充電済みノート PC に Stata をインストールのうえご持参ください。準備できない場合も、講師の操作を見るところで受講は可能です。）

【講師略歴】

氏名：水落 正明（みずおち まさあき）

専門：労働経済学、家族の経済学

研究テーマ：若年者・高齢者の就業、少子化、晩婚・非婚化、幸福度・生活満足度

現職：南山大学総合政策学部総合政策学科准教授

最終学歴：東北大学大学院経済学研究科博士課程後期修了 博士（経済学）

【最近の業績】

- Masaaki Mizuochi (2012) "Husband's Child-related Leave and Fertility in Japan," *The Empirical Economics Letters*, Vol.11, No.4, pp.333-340.
- 水落正明 (2012) 「次世代育成支援対策推進法が出産および女性の就業継続に与える影響」『社会科学研究』 Vol.64, No.1, pp.6-24.
- Masaaki Mizuochi (2013) "The Gender Gap in Happiness and Socioeconomic Condition," *GEMC Journal*, No.8, pp.80-94.

8月7日(水)【応用編2】計量テキスト分析

樋口耕一 講師

計量テキスト分析とは、人々の自由記述・インタビュー記録・新聞記事などをはじめ、さまざまなテキスト型データを計量的に分析するための方法です。「テキストマイニング」と呼ばれる比較的新しい技術を利用しつつ、伝統的な内容分析 (content analysis) の考え方を実践に活かす点に特徴があります。

多くの自由記述が得られたとしても人間が目で読むだけでは、性別・学歴・年代・収入などの属性によって、回答内容がどう異なっているか、正しく把握することは難しいでしょう。また、どのような記述が多かったかという全体的な印象ですら、選択的で偏ったものになってしまうかもしれません。本講ではこうした問題に対処する方法として「計量テキスト分析」を紹介するとともに、分析用ソフトウェアを使った演習を通じて、分析の実際を体得していただきたいと思います。

第一講 計量テキスト分析の方法と実現のためのソフトウェア

第二講 フリーソフトウェア KH Coder による分析の実践

第三講 引き続き分析の実践と発展的な利用方法の紹介

【講師略歴】

氏名：樋口耕一 (ひぐち こういち)

専門：社会学

研究テーマ：コミュニケーション、社会意識、計量社会学、社会調査法

現職：立命館大学産業社会学部准教授

最終学歴：大阪大学大学院人間科学研究科、博士 (人間科学)

【最近の業績】

樋口耕一, 2013, 「情報化イノベーションの採用と富の有無——ウェブの普及過程における規定構造の変化から」 『ソシオロジ』 57(3): 39–55.

樋口耕一, 2012, 「社会調査における計量テキスト分析の手順と実際——アンケートの自由回答を中心に (第10章)」 「今日から始めるテキストマイニング——計量テキスト分析の環境『KH Coder』 (資料2)」 石田基広・金明哲編 『コーパスとテキストマイニング』 共立出版, 119–28, 204–9.

樋口耕一, 2011, 「現代における全国紙の内容分析の有効性——社会意識の探索はどこまで可能か——」 『行動計量学』 38(1): 1–12

8月7日(水)【応用編3】制限従属変数の分析

水落正明 講師

値の範囲に制限のある従属変数について分析するケースがある。例えば所得を独立変数、株式保有額を従属変数とした場合、所得が低いところでは株式保有額はゼロが多く、データの分布がゼロのところで切断された形になる。また、世帯の子供数などのカウントデータも制限従属変数に含まれる。このような、制限従属変数の推定では、通常の線形回帰は適切ではない。本講義では、こうした制限従属変数を分析する上で必要な基礎知識について解説するほか、実習によってその定着を図る。

第1講 打ち切り・切断データの分析

打ち切り・切断データの推定モデルであるトービット・モデルや、サンプル・セレクション・モデルなどについて解説する。

第2講 カウントデータの分析

ポワソン回帰モデル、負の二項回帰モデルなど、従属変数がカウントデータの場合の推定方法について解説する。

第3講 制限従属変数の分析の実践

Stata を使って、打ち切り・切断データ、カウントデータの推定の実習を行う。(※教室の PC には Stata が入っていないため、実習を行なってみたい方は充電済みノート PC に Stata をインストールのうえご持参ください。準備できない場合も、講師の操作を見るところかたちで受講は可能です。)

【講師略歴】

氏名：水落 正明 (みずおち まさあき)

専門：労働経済学、家族の経済学

研究テーマ：若年者・高齢者の就業、少子化、晩婚・非婚化、家事・育児

現職：南山大学総合政策学部総合政策学科准教授

最終学歴：東北大学大学院経済学研究科博士課程後期修了 博士(経済学)

【最近の業績】

- Masaaki Mizuochi (2012) "Husband's Child-related Leave and Fertility in Japan," *The Empirical Economics Letters*, Vol.11, No.4, pp.333-340.
- 水落正明 (2012) 「次世代育成支援対策推進法が出産および女性の就業継続に与える影響」『社会科学研究』 Vol.64, No.1, pp.6-24.
- Masaaki Mizuochi (2013) "The Gender Gap in Happiness and Socioeconomic Condition," *GEMC Journal*, No.8, pp.80-94.